

# 「集中力続かない」

## 久喜市のハイブリッド授業

緊急事態宣言を受け、久喜市は夏休み明け、学校と自宅と同じ授業に取り組む「ハイブリッド授業」を導入した。感染防止に効果を発揮した一方、保護者の声からは、さまざまな課題も浮き彫りになった。(保坂直人)



分教校でハイブリッド授業を始める  
久喜市立鷺甲中学校

市はコロナ禍、オンラインを活用した学習支援を本格化。8月末からの分教校に合わせ、子どもが学校と自宅、同じ授業に取り組む「ハイブリッド授業」を導入した。

分教校指導員の川島尚之さんは「感染症対策と学びの継続という観点からハイブリッド授業を取り組む」とする。

多くの小中学校で、オンラインの児童・生徒をグループに分け、交互に授業。片方のグループが授業で、もう一方が自宅から同じ授業に参加する形式だ。

分教校の期間、クラスターや学級閉鎖は、感染対策として一定の効果が出ている。

## 保護者の意見提出

保護者の声

一方、オンライン授業の拡大により、課題がよの浮き彫りになった。市PTA連合会が、市内小中10校ほどの保護者から集めた声をまとめた。「やっぱり家と集中力が続かない」「仕事はなるべく在宅に変更し付かず離れず」「現時点では家庭、特に保護者の負担が大きい」。

自宅に子どもを残す、昼食の準備、学習との連携、仕事との両立など、親の不安や負担の声が多くなった。先生と子どもがうまくコミュニケーションを取れていないといった指摘もあった。

同連合会は内容を市、市教委提出。福田泰隆会長は先声たちの頑張りを評価する声も多し、親の立場からは多様な意見が、親の参考にしてほしい」と話している。

■受験への影響

こうした保護者の声に配慮。感染が減少したところもあり、市は21日から通常授業に戻す。ただし感染不安やワクチン接種などの理由で登校し

## 地域の独自事業が続々

### 日高市で初のビジネスコン

地域活性化や地域の課題解決に貢献する事業者を支援するビジネスコンテスト「フューチャリティン」が、日高市で初のビジネスコンテストを開催した。最終審査会が11日に日高市内で行われた。主催は、飯能と日高地域の若手事業に認定が与えられた。

長年ソーシャルビジネスに取り組む、事務局の審査を経て発表されたアリソン(ジョン・ペリス社長)がゴールド認定を受けた。オーガニックという言葉が認知されていなかった30年以上前から、農業や化学肥料を使わないオーガニック食品を輸入販売し、持続可能な食や自然環境保全などを発信し続けてきた点が高く評価された。

## 白の曼珠沙華 400本が満開に

熊谷市鎌倉町にある石上寺境内にある約400本の白の曼珠沙華(ヒガンバナ)が見頃を迎えている。

毎年、彼岸の時期になると咲くヒガンバナは赤、白、黄色がある。8年前、地元産料医院関係者が球根5つを植えたところ、年々勢いを増し、この間にか一面を覆うようになった。純白の曼珠沙華は見る者の心をほろりさせる。(タム)記者・栗原和江



# 地域総合

熊谷市 さいたま市 秩父市 川越市 春日部市

本社 さいたま市北區野町2-28-213  
TEL048179519161  
編集局 TEL048166319040  
FAX048166319040  
dokusya@satama-np.co.jp

広告の運用 TEL048179519932

## 「笑い文字」で癒やされて

### 11月23日 加須の会席で展示会

加須市向川岸町の会席さきまつとinn羽生のブースで11月23日(日)10時、一般社団法人笑い文字普及協会の加須支部(永永)が、笑い文字の普及を行うとして、展示会を開催する。

永永さんは羽生市在住。笑い文字の笑顔に魅了されて協会の講座を受講。2019年に講師になった。地元羽生市に開催の「世界キャラクター」

「笑い文字の楽しさについて」永永さんと加須市向川岸町の会席さきまつとinn羽生のブースで11月23日(日)10時、一般社団法人笑い文字普及協会の加須支部(永永)が、笑い文字の普及を行うとして、展示会を開催する。



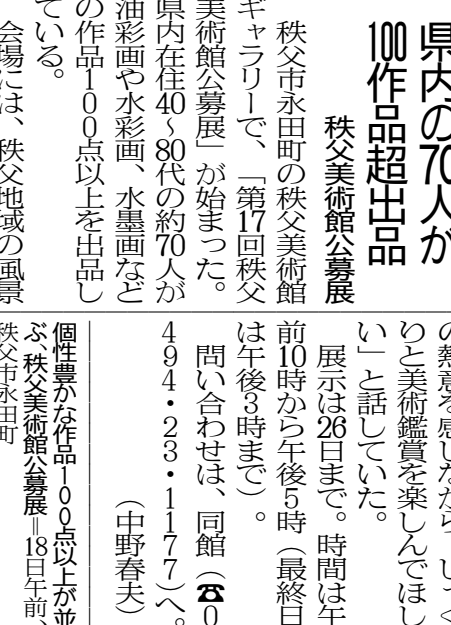
## 県内の70人が 100作品超出品

秩父美術館公募展

秩父市永田町の秩父美術館ギャラリーで、第17回秩父美術館公募展が始まった。県内在住40、80代の約70人が、油絵や水彩画、水墨画などの作品100点以上を出品している。

会場には、秩父地域の風景画や人物画など、ジャンルを問わず個性豊かな絵画が所狭しと並び、目録の浅見嘉正さんや倉林愛二郎さんら計15人が審査員を務め、12作品が入賞した。

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの開催となったが、今年は感染対策を徹底して安心して鑑賞できる空間を提供している。同館の西勝寿館長(88)は「コロナ禍の中で作品づくりに取り組む皆さん



## 笑い文字 クリック

「笑い文字」を「クリック」して、笑顔のイラストが描かれた作品が所狭しと並び、目録の浅見嘉正さんや倉林愛二郎さんら計15人が審査員を務め、12作品が入賞した。

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの開催となったが、今年は感染対策を徹底して安心して鑑賞できる空間を提供している。同館の西勝寿館長(88)は「コロナ禍の中で作品づくりに取り組む皆さん

## 高い志

この日の参加者は43人。約半数の22人が、第1予選で敗退した再挑戦組だった。これが最終予選なので、「(予選)をクリアできないと県大会出場の見込みが絶たれる。新後さんは、川口にある大野八一雄七段の自宅教室に通っている。教室で今年の手選方式が変わったことを告げると、参加したと思いきや、これは強い人と切磋琢磨になり、時間追われていく。新後さんは「14五同歩を見て度外視して強豪の駒を借りたい」というのは志が高い。

自然な▲4五歩の仕掛けを得て先手好調である。新後さんは「30秒将棋。相次いで斉藤君も気持のいい跳躍だ。たまたまの後の▲2一歩▲1五歩は、歩はや方向違いで、教室の大野七段は▲5三三成(同金▲四飛)同歩▲4二角で決まっていた(ように)と指摘する。

新後さんは対局中、飛車を切るのたためが、あつたつたが、「1一五同歩では▲4六歩と打つて、▲4四銀と立つて反撃すべきでした」と、斉藤君は少し受けずきました」と、大野七段。

(佐藤)

## 第75回 アマ名人戦 埼玉県大会第3予選

(図は△3三角までの局面)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	桂	飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩
玉	角	金	銀	金	銀	金	銀	金
王	将	士	象	馬	車	歩	歩	歩
香	桂	飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩

▲新後 浩司(川口) 対 ▲斉藤 俊佑(さいたま)

## 受験生を応援する 埼玉新聞社 高校受験ナビ

埼玉県内の高校の基本情報や 高校受験関連のニュース・コラム、学習動画が無料で閲覧できるサイトです。

スマートフォンの方はこちらから→ PCの方は 埼玉新聞社 高校受験ナビ

学校情報を探す 検索でヒットした高校の基本情報に加えて、各高校の公式SNS各種もワンストップで確認できます

フリーワード検索 キーワードがヒットすると学校の情報ページだけでなく、サイト内の記事も出てきます

受験コラム・ニュース 最新の高校受験に関する情報や、埼玉新聞社で行ったアンケートに基づいたニュース、受験のプロのコラムなどが毎週月曜にアップされます